

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071300432		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名	愛光園グループホーム		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1401-2		
自己評価作成日	平成22年11月2日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3071300432&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりが自身のペースで生活できるように支援しています。また、医療機関との連携を密にし入居者が健康で安心して生活出来るように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム愛光園の建物の4階部分にあるグループホームである。ホーム周辺には山や田畑が広がり、大きく開かれた窓からは季節が感じられる。入居者の多くがホーム周辺で生活していたこともあり、日々の散歩や買い物で馴染みの人との交流がある。気付きノートを作成し職員間で共有し、一人ひとりの思いを大切に起居者の意向の把握に努めて、その人らしい日々を過ごせるようなケアを心がけている。また食事作りをケアに活かすよう取り組まれており買物から調理、片付け等めいめいが力を発揮する場が保たれるよう支援され、一緒に同じ食事を楽しんでいる。また、入居してから日も浅く帰宅願望の強い入居者には不安が解消するよう根気よく声かけをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前回の評価後から新たに理念を作り直し玄関に掲示している。 職員は理念の意味を理解しているが共有、実践するまでには至っていない	「地参地生」、「地域社会に参加し、地域の中で共に生活します」という独自の理念を職員で話し合い作り上げている。理念は1階の玄関の目につきやすい場所に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のサロン事業に参加し交流を図っている。それ以外では買物の際に挨拶を交わす程度。	毎月近くの佐野住民会館で開催されている高齢者を対象としたサロン事業に、入居者と共に参加している。地域の文化祭や近くのスーパーでの買い物の際に地域住民との交流できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトである管理者が地域住民に対して認知症サポーター養成講座を開催し認知症を理解してもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は検討し見直せる部分については見直しサービスの向上に努めています。	法人の2グループホームが合同で開催している。開催頻度は少なく年2回程度である。町役場の担当者や地域包括支援センターの職員の参加は得ているが、地域住民等のメンバーは欠席が多く参加者は少ない。	家族会等の催しの日に合せて開催するなど、参加しやすい日時を設定し、会議の回数が増えサービスの向上に活かせることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議への参加等を通して関係を構築出来るよう取り組んでいる。	毎月開催される地域ケア会議で、町の介護保険担当者や地域包括支援センターの職員と交流する機会があり、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解をしているが、今現在はエレベーターや屋上通用口には施錠しており取り組んでいるとはいえない	身体拘束の弊害について、管理者から職員に口頭で説明することはあるが、研修会などは開催されておらず、マニュアルも作成されていない。以前、無断で外出してしまった入居者がいたため、エレベーターの押しボタンには蓋をしている。	研修会やマニュアルの作成などを通して身体拘束をしないケアを全職員が習得し実践できることを期待する。エレベーターで1階に降りても、事故に遭わないような環境作りを法人全体で検討することを望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法について学ぶ機会は設けられていないが、職員同士で注意し合っている。		

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は学ぶ機会があるが他の職員は機会が設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には見学に来て頂き、説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回の家族会の開催、意見箱の設置し意見や要望を聞ける機会を設けている。	毎月訪問する家族には、訪問の際に意見を聞くようにしている。年1回の家族会の他、ホームの便りや無記名のアンケートでも家族からの意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務改善の会議を行い管理者と職員の間で意見交換出来るようにしている。代表者には会議録を作成、報告している。	毎月の業務改善会議で、職員から意見を聞くようにしている。職員自身の自己評価を半年に2度行い、結果を踏まえて意見交換がなされている。出された意見は積極的に運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には職員間で差が出ないよう心がけています。また、希望休には出来るだけ沿うようにしています。 職員は労働組合に加入し組合から職場環境の改善を働きかけてもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や希望に応じて研修の機会を設けています。 技術面で足りない所は併設の特養で実習を行い技術の習得に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際に意見交換することで交流を図っています。		

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面接したり、介護者から情報収集し安心して生活して頂ける環境作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には家族と面接し意見を聞き取るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接から必要としている事を見極め支援しています。また必要に応じて他機関との連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に出来る事は皆で行い、職員が全て行う事がないようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事へ参加して頂く事で関係の構築に努めています。 家庭内行事への参加も呼び掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内にいる馴染みの方にはいつでも交流出来る環境になっています。 地域への行事には出来る限り参加するようにしています。	ホームを訪れる人は少ないが積極的に外出し、地域での馴染みの関係の維持、構築と継続を支援している。同一法人内での知人とは自由に交流できる機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を理解した上で互いに役割を認め合う人間関係の構築に努めています。		

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人で相談できることはしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを重ね意向を知るようになっています。 些細な会話にも気を配り捉えられるように心掛けています。	その人の思いを知るために、気付きノートを作成し記載している。ノートは各職員が出勤時に確認している。毎週開催している会議で、ケア記録を確認し合い、情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方から情報収集したり、直接本人から聞いたりして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月ごとに処遇目標を設定し毎日評価することで把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人から意向を聞き、その上で職員と話し合い介護計画に繋げています。	計画書は本人や家族からの情報や気付きノートを基に作成し入居者一人ひとりに即した介護計画となっている。計画の見直しは状態が変わればその都度、状態が変わらない場合は3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌の他にも個別に細かな内容の日誌や毎日の気づきチェックシートを書き職員が把握出来る様にしています。また、必要に応じてミーティングを行い気づきを話し合い共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自事業所に対応できない事は他の事業所や医療機関と連携し対応しています。		

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握するまでには至っていません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携をとっている医療機関を中心に他科受診なども行っています。	入居者全員が入居前から事業所の協力医療機関を受診していることもあり、かかりつけ医についての話し合いはしていない。他科受診の場合は、ホームから支援を行っている。受診の内容は家族に口頭で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携をとっている看護師が訪問してくれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の連携室と連絡を取り合い情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアなどについては指針をまとめ家族に説明し相談の上で方針を決めています。	重度化した場合には、同一法人の特別養護老人ホームへの入所を事業所の方針としているため、現在まで看取りはない。希望があれば、訪問看護なども利用し、看取りもできるようにしていくことも検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には対応出来る様に特養で実習を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署より避難訓練を受けています。地域の協力体制は築けていません。	年に2回、入居者を含めて法人全体で避難訓練を行っている。地域住民との協力体制はできていないが、法人が災害時の避難場所になっていることもあり、災害時の体制は整っている。	

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者各個人のプライバシーが守られるよう言葉掛けや対応には十分注意しています。	排泄時や入浴時にも自尊心を傷つけないよう言葉かけに注意している。個人のファイルは事務所で管理し、人目に触れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いには出来る限り応じられるようにし、自己決定が出来る様支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活パターンを把握し本人のペースで過ぎて頂いています。外出希望があれば出来る限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を購入する場合は可能な限り一緒に買物に出掛け好きな服を選んで頂けるようにしています。 散髪は月に一度、美容師の方にしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者、職員と一緒に食事を作っています。 特定の方ばかりに作って頂く事がないよう全員で出来る様に支援しています。	献立は栄養が偏らないように法人の管理栄養士が作成している。献立を基にしながら、入居者と職員で買い物や調理を行っている。食事や後片付けも入居者とともにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士から頂き、沿うようにしています。 水分摂取量はチェック表を作り確保出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い口腔ケアをしています。 介助が必要な方には職員と一緒にしています。		

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作りパターンを知り、声掛け、誘導を行っています。	排泄チェック表を作成し、周囲の人に気付かれないよう声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを摂取することや服薬にてコントロール出来るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り入居者の希望に沿えるように入浴して頂いています。	午後7時頃までは自由に入浴でき、希望があれば毎日でも入浴できる。できるだけ家庭的な雰囲気が出るようバスタオルは個人で用意してもらっている。希望があれば2人での入浴もできる。同性介助を原則としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間帯は生活作業の声掛け等は控え体調を考慮し無理のないよう過して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬剤情報はファイルしています。服薬状況を常に把握し服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中での役割分担が出来ており外出(買物、散歩)、野菜の栽培などの支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により自宅に帰ったり、買物に出掛けたりとより多くの方に外出して頂ける機会を設けています。	日常的には散歩や近くのスーパーへの買い物に出かけている。春と秋の遠足の他、天気の良い日にはお弁当を持ち、外出先で食事をすることもある。法人の方針で外食は認められていない。	食中毒や感染症など、時期によっては難しいこともあるが、入居者が楽しみにしている外食もできるだけ機会が持てることを期待する。

【事業所名】愛光園グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方はお金を持って頂いています。管理出来ない方はこちらが管理し必要に応じ買物に出掛け買いたい物を買って頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には家族の理解のもと、自由にして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分にはあまり物を置かないようにし混乱を招く事を防止しています。また、排便臭がしないよう居室に芳香剤を置いたりして不快に感じないように心掛けています。	壁一面がベージュ色で、電気装置の扉もむき出しになっているなど、家庭的な雰囲気とは言い難いところもある。畳のコーナーもあるが、物が置かれ利用されていない。大きな窓からは、季節の風景が見えるが、リビングには季節感があまり感じられない。	季節の花や装飾品などを工夫し、ホーム内においても季節が感じられ温かく家庭的な空間が作られることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や廊下にソファを設置し、気の合った入居者同士で過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前後に御家族に説明し、使い慣れた物などは極力持って来て頂く様にしています。	居室にはクローゼットやベッド、洗面台、カーテンが用意されている。布団の他、人形や写真など本人が使い慣れたものが置かれ、居心地良く暮らせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチン是对面式のオープンキッチンで作っているものが一目で分かるようになっています。IHヒーターを使用しており安全に調理出来るようになっています。		